

松坂みち子パンフできました!

来春の統一地方選、和歌山市区で県議2議席に挑戦する松坂みち子さんのパンフレットができました。(B5版カラ8頁)広めてください。連絡していただけたら、お届けします。



くらしがたいへんな今こそ
県政にまがりを

日本共産党 市議会議員
松坂みち子

<http://jcpwkymsakura.net.jp/>

ワンとコマカシ、憲法破壊の安倍政権は退陣を!!

和歌山民報 2018年8月 号外 日本共産党和歌山県委員会の政見を紹介し、発行/日本共産党和歌山県委員会 和歌山市西長町2-33 ☎073 425 4111

松坂みち子

安心の基準は、
台風20号の影響で、淡路島の風車が基礎のコンクリートごと倒れました。映像を見て、風車の大きさに比べて基礎が小さいと感じたのは、私だけではないのでは間に合いません



松坂みち子 (県議予定候補)

しゃうか。報道に「古い基礎のとき」に建てたものだから。それにしては、何かの施設をつくるには、決められた雨量が風速などに耐えられるものでなければならぬのは当然です。しかし、その基準が今までの数値を参考にしていたのでは間に合いません

潮流

18.8.23日刊 球で施風を巻き起こした秋田・金足農

100回記念の大会となった夏の高校野球の農高は地元だけでなく、全国の球児たちを励ました▼プレはもちろん、体を反りながら笑顔で歌う「全力校歌」も有名になりました。▼可美しき郷 我が金足一から始まる校歌は昭和の初めに制定。「故郷」や「春の小川」などの唱歌で有名な岡野真一氏が作曲し、国文学者の近藤忠義氏が作詞したものです▼厳しい自然のなかで学ぶ農高の愛や敬い。「やがて来る文化の黎明」この道にわれら招かむ」と歌い上げる校歌には、戦前の暗い時勢に新しい時代を開く若者たちへの激励や期待が込められています▼日体大の校歌も作詞した近藤氏はこの頃、東京音楽学校(現東京芸大)の講師でしたが、思想問題で解任。その後、法政大の教授を務めました。治中維持法で検挙され、敗戦の時獄中でわかえました▼戦後もななく日本共産党に入党。国文学界の重鎮として、戦前は日本文学研究に新しい学風を開き、戦後は日本文学協会の創設に参加するなど、民主的で科学的な文学研究の確立に尽くしたと評されます▼半世紀におよぶ教師生活のなかで学生からも「近藤」さんと慕われました。痛恨の思いは、あの戦争中に次々と言葉が死んでいった教壇を去ったこと。それをくり返してはならないと生前、本紙で語っていました。野球を通じて自由と平和を体現する若者たちが歌い出す。どんなに喜んでもいいですか。

赤旗 日刊紙 3,400円/年 日曜版 800円/年